「柏崎の橋」４２

県道黒部･柏崎線　豊田橋・なごみ橋（山本・原町）

県道 黒部･柏崎線の豊田橋は、かつて西中通地区の鯖石川上にあり、山本と原町を結んでいた。なお、国道８号線上に同名の橋が存在する。

明治１１年、明治天皇御巡幸にあわせ、橋場～下原～山本～土合を通って曽地峠に向かう新道が開削された。この開削工事について『刈羽郡旧蹟志』に「鯖石川別山川の架橋あり 鯖石川は路線中架橋の最も大なるものとす」とみえることから、下原・山本間の鯖石川に、曽地峠へと繋がる橋が新たにできたことがわかる。この橋こそ豊田橋（もしくはその前身となる橋）であったと推測される。

「豊田橋」という名前が当館の資料にはじめて登場するのは、大正８年８月の越後タイムスと柏崎日報に掲載された、豊田橋竣工の記事である。当時は越後鉄道西中通駅が開業したばかりであり、駅は丸新精油所の貨物や桃・梨の出荷で活況を呈していた。また多くの乗降客があり、山本地区は賑わいを見せていたという。豊田橋も西中通駅を利用する人々が日々行き来していたに違いない。

国土地理院発行２万５千分の１地形図『柏崎』（明治４５年発行）を掲載

しかし十数年も経つと橋は腐朽が進み、通行に危険な状態となった。橋を通る道は柏崎と長岡を結ぶ主要道であり、柏崎から曽地に向かうバスが通行するなどしていたため、県は西中通村に架け替えを提案した。費用の一部負担を求められた村は、予算不足から当初は難色を示したが、「ムザムザ工事を他郷へ落とすのも癪じゃないか」（柏崎日報記事より）と柏崎土木派遣所が村の上層部に相談し、結果的に新しい橋が建設されることになった。こうして、年間予算およそ３万円の村に総建設費約２万円の永久橋が着工、戦時下の物資統制による建材不足で工期が延びたものの、昭和１５年１月に鉄筋コンクリートの新豊田橋が完成した。竣工式は雪解けを待って盛大に行われた。

その後、橋は６５年もの長きにわたって地域の交通を支える重要な役割を担ったが、鯖石川改修工事に伴う新橋建設のため、平成１７年にその役割を終えた。新しい橋は自動車がゆったり走行できるほか、上下水道・ガス・電気など現代人の生活に欠かせないライフラインも敷設されている。国道８号線上の豊田橋と区別するため、橋名こそ「なごみ橋」と改められたが、地域にとって欠かせない存在であることに変わりはない。竣工式ははらまち保育園の鼓笛隊や花火の打上げが花を添えたほか、完成を祝ってハナミズキが植樹されるなど、橋が人々に歓迎されていることがわかる。

●参考にした本
西中通のあゆみ（224 ﾆｼ）柏崎市西中通公民館 編
郷土教育資料（224 Kﾏｷ）柏崎市立槙原小学校 編
新刈羽大観（224 Kｼﾝ）柏崎新聞社